こうざえもんつうしん
講左衛門通信
平成26年10月12日
第31号

発行　天台宗忍草山東円寺
〒401－0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555－84－4114

富士大我講左衛門（ふじのだいがこうざえもん）　年齢不詳
職業　大我講の先達（せんだつ）
（先達とは案内責任者）

『クニマッスンは、現在の山梨県水産技術センターの以前の名称を知っておるかのう…。』
『知っているでまっすん。※昭和 6 年に山梨県営忍野ふ化場としてニジマスの生産を開始、昭和 27 年には、忍野養殖場建設3か年計画に基づき山梨県忍野養殖場が誕生したでまっすん。けれど、平成 5 年には水産技術センターと名称が変更され、現在地に忍野支所を整備。これに伴って、忍野養殖場は施設の老朽化により廃止されてしまったでまっすん。』
『よく知っておったな。感心じゃ。さて、忍草浅間神社大祭は 5 月なんじゃが、9 月のお祭りは諏訪明神大祭なんじゃよ。秋祭りも浅間神社のお祭りだと勘違いしている人も多いようじゃが全く違うんじゃ。5月の浅間神社大祭は、東円寺とは全く関係がないのじゃが、秋の諏訪明神大祭は東円寺が深く関わっておるんじゃよ。』
『廃仏毀釈以降、お寺とお宮は分けられてしまったでまっすん。諏訪明神大祭に東円寺が深く関わっているとはどういう事でまっすん？訳が分からないでまっすん。』
『以前話したことを思い出してほしいんじゃが、明治以前は、忍草浅間神社は別当寺院がお守りしていたんじゃよ。それが東円寺じゃ。ある日、政権が代わって、神と仏を分ける法律ができたんじゃ。当時の忍野村は、現在のように交通の便は良くないからのう、政治的圧力は他から比べると無いに等しかったかもしれんな。昨日まで、東円寺の住職が、様々な行事を取り仕切っていたのに、今日法律が変わったからと簡単にお寺と神社を分けられなかったんじゃろう。けれども、少しずつ神社は神社、お寺はお寺に分けられていったんじゃよ。しかしじゃ。秋のお祭りというのは収穫祭じゃ。農作物が豊作であったお礼を神に捧げるお祭りじゃ。秋のお祭りの方が人々の心が高揚しておるからのう、お祭りの費用が大変だったのかもしれんな。その費用の負担をお寺が担ったんじゃよ。諏訪明神と、お神輿様のお休み処である御旅所（お玉屋）のお供え物（神饌）と、諏訪明神大祭すべての儀式が終わった後の直会（なおらい）。簡単に言うならば食事会なんじゃが、直会にも深い意味があるんじゃ。この直会を「袴脱ぎ」と昔から言われているんじゃが、東円寺の庫裏でされているんじゃよ。さて、神饌の話に戻さねばな…昭和6年に忍野村にニジマスのふ化場ができたんじゃが、現在のような技術はない時代じゃ、この事業を成功させるためには、神頼みをしたんじゃ。忍草の地に住まう神様に貢物をしたんじゃよ。秋の諏訪明神大祭の魚は、昭和6年山梨県営忍野ふ化場から現在の水産技術センターと名称が変更された後も、ニジマスが奉納されておるんじゃ。長い歴史を持つ話じゃろ。』
『約 80 年も続いているでまっすん。すごいでまっすん。』　※山梨県水産技術センターHPより抜粋
『この話の続きは、次号で話すこととしよう。』
『おいらの誕生秘話まで聞けなったかったでまっすん。』

『講左衛門通信』は、
第２・第４日曜日に発行予定